



かけはし

五條小学校通信

2013年7月4日

第5号

ヒロシマから学んだこと



1945年8月6日、その日のヒロシマは快晴でした。午前8時15分、上空に飛来したエノラゲイ号から悪魔の原子爆弾が投下されました。出勤や登校を急ぐ人たちが一瞬の閃光に飲み込まれ、爆風と熱線によって、街は、まさに地獄の海と化しました。あの日から今年で68年になります。75年間、草木も生えないと言われた大地から人々が力強く立ち上がり、信じられないほどの復興をとげました。

しかし、多くの人々は原爆症という犠牲を強いられることとなります。その1人に「佐々木さだ子」という女の子がいました。彼女は、黒い雨に打たれたことが原因で白血病に冒されてしまいます。発病は、小学校6年生の時でした。それまでのさだ子はすくすくと育ち、リレーの選手として活躍するほど元気な小学生でした。けれども、原爆の炸裂によって生じた放射能が彼女の体を少しずつむしばみ、異変を生じさせていきました。

診察の結果、恐ろしい病名が下され、さだ子の余命がいくばくもないということを知ることになります。その日から彼女をはじめ、一家の闘病が始まりました。

何も知らない彼女は、早くよくなって、仲間といっしょに学校に行きたいと、苦しい治療に懸命に耐えました。悪化する病状の中でも希望を失わず、鶴を千羽折ると病気が治ると信じて折り続けました。その鶴が千羽を数える前に彼女は力尽き、命の火は消えてしまいました。

そんなさだ子の死を悲しんだ同級生が、

「さだ子の墓を建てよう。さだ子はいつまでもわたらの心の中に生きとる。ここに来たらさだ子に会える。そんなお墓をつくるんじゃ。」

と、募金を始めました。その思いが全国的な広がりをみせ、平和公園の中に「原爆の子の像」として完成します。頭上に両手を高く広げ、1羽の大きな折り鶴を掲げて空を見つめる彼女の姿に、見る人誰もが心を打たれます。何か不思議な力が感じられてなりません。毎日、全国から数多くの修学旅行生がこの像を訪れ、千羽鶴が捧げられています。そして、像の前で「鎮魂と誓い」の平和集会が行われています。

本校でも、6年生が5月の修学旅行で行いました。多くの観光客や他の修学旅行生たちが見つめる中、堂々と立派な集会をやり遂げることができました。

そして、先週の24日、月曜日、全校朝会の折り、ヒロシマでより強く、より深く学んできた平和の尊さとありがたさを、さらに、今私たちにできることは何なのかを下級生たちに伝えるため、48名の学びと研究の成果を渾身の歌とともに披露してくれました。



月曜日に、班ごとの発表を聞きました。私はみんな平和について考えているなあと思いました。戦争のあった時代と比べると、今は本当に平和だと思います。私は、今、自分に出来る事をやりたいです。そして、私はこれから友達を大切にして、仲良くしたいです。戦争が起きたのは、アメリカと日本の仲が悪かったからだと思います。だから、私は友達を大切にしたいです。友達を大切にすることは、具体的に友達のことを思ったり、友達のいやがることをしなかったり、言わなかったりすることだと私は思います。

私は、A君が発表したように「平和」という言葉をかたんに使っていたかもしれないなあと思います。私は、今、戦争をしている国はやめてほしいです。戦争をしなければたくさんの方は、一度に亡くなってしまわないと思います。戦争をしている人達は、他の人達のことを考えているのかなあと思います。戦争はだめだということをとくさんの方に考えてもらいたいです。

平和資料館に来ていた外国の人達はえらいと思います。なぜかと言うと、戦争はいけないと思ったりして、戦争をするとたくさんの方が死んだり、ひどいけがや病気になってしまうということを学びに来たからだと思います。

私は、人を思い合ったり、困っている時に助け合ったりすることは、とても大切なことだと思います。私はこんなことを出来る人になりたいです。人のことを思い合ったりすることはすごいことだと思います。



集会の日の朝は、分団登校がいつもよりはやく学校につきました。そして、ぼくたちはいつもより15分ほど早めに行きました。そして、8時30分になり、平和集会がはじまりました。そのとき、ぼくはみんなの前で発表する、ということできんちょうがとけていきました。けれども、それが発表するときに近づいていけば、そのきんちょうがとけていきました。なぜきんちょうがとけていったかと言うと、平和のことについての発表なので、きんちょうしている場合じゃない!と思ったからだと思います。

そして、いよいよぼくたちH1の発表のときがきました。そして、B君が言い終わり、C君の

「わたしたちにはとても想像することのできない高温です。」

と言い終わったら、ぼくは、はやく言わんなどと思ってしまい、すこし早口になってしまいました。けれども、ドキドキはあまりしなかったので良かったです。

ぼくは、はっきり言って、6年生になるまで平和のことについてぜんぜん考えたりしませんでした。けれども、修学旅行に行ってから前よりも平和のことについて深く考えることが増えました。

でも、戦争が昔、日本であったからこそ今、日本は何をすべきかよく考えていると思います。原子ばくだんを持たない。戦争ほうきなど、いろいろな戦争をおこさない、すなわち、平和になる工夫をしていると思います。

だから、ぼくたちは、友達と仲良くし、戦争なんかぜったいなくしてほしい、と思いました。